

乳幼児期・学齢期作業部会事例検討の概要

事例①	小学校に通う子の事例
取り組みたいテーマ	就学前健診等で落ち着きのなさが指摘されているが、特に支援を受けていなかった子。入学後、症状が目立ち始めるも、担任が一人で困っている状況にあり、今後の支援体制をどのように形成していくかを検討する。
グループでの意見	<ul style="list-style-type: none"> ・子の現状を担任のみで抱えず、校内ケース会議等を実施し、スクールカウンセラーや特別支援教育コーディネーター等含めたチームとして共有し、対応方法を検討していく。 ・スクールカウンセラーや巡回相談を活用しアセスメントを行い、その子に合った学習方法や生活支援について検討する。 ・保護者の気持ちを聞き、寄り添いながら支援を一緒に考えていけるよう、保護者対応の役割を担う職員も重要になる。 ・必要に応じ、子ども若者相談センターや発達障害者支援センター等の専門機関での相談や、医療機関受診等も検討する。
確認した情報等	<p>【校内資源の活用】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スクールカウンセラーによる子のアセスメント ・児童クラブとの連携、情報の共有 ・校内でのケース会議、職員間での情報共有と連携 ・保護者との面談（家族の気持ちの受け止め、関係の構築） ・巡回相談の利用 ・子に合った支援の検討（必要に応じ通級指導教室の利用） <p>【校外の支援の活用】</p> <p>※校内支援に加え、より専門的な支援が必要な場合</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子ども若者相談センターや発達障害者支援センター等での相談支援（保護者への関わり方の助言や、学校との連携） ・保護者のサポートとしてペアレントメンターを紹介 ・医療機関での見立てと助言を得る ・放課後等デイサービスの利用

事例②	こども園に通う年長児の事例
取り組みたいテーマ	<p>こだわりが強い、集団のルールが守れない、家から飛び出す等の危険行動がある加配対象児について、対人トラブルの軽減、衝動的な行動への対応、保護者の支援等就学に向けての対応を検討したい。</p>
グループでの意見	<p>医療機関、公立こども園加配、巡回指導、児童発達支援事業所との連携など、子や家族にサポートできる機関の整理を行い、現在できる支援、今後できる支援を中心に話し合っていく方向性を検討した。</p>
確認した情報等	<p>【支援の確認】</p> <p>児童に対する支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・すくすくファイルを活用して、現在のサポートをサポートプランとして、支援者が共有していきながら支援を実施する。 ・ソーシャルスキルトレーニングが実施できる機関へつなぐ ・投薬による効果が認められると判断された場合、家族による投薬管理が必要 <p>家族に対する支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者のサポートにペアレントメンターを活用する ・子へのかかわり方への支援はストレスマネジメント講座等支援機関での講座を案内 <p>就学時に実施する支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今まで支援してきた機関の情報を引き継ぐ。引き継ぎに関しては、「すくすくファイル」を活用して実施する。 ・就学後も継続的に子を支援する機関を決める